



みぬまニュース

第41回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』 4月17日(土)

市民の森⇒見沼代用水西縁⇒見晴公園⇒見沼2丁目たんぼ⇒神明社⇒見沼公園⇒小島家⇒防風林⇒芝川⇒鷺神社⇒市民の森

4月17日(土)13時～16時、見沼たんぼ北西部の市民の森エリアの史跡を訪ねながら、自然景観と野の花を観察しました。降雪の翌日のことで、参加者は16名に止まりました。自然観察指導員のガイドが4名もいましたので、「いろいろと聞くことが出来てよかったです。」と喜ばれました。

見沼たんぼ地域では、ここだけで見られる風物が三つあります。皆さんがもっとも感動した所でもありますので、紹介しましょう。

風力発電をおこすオランダ風車塔

見晴公園には、オランダ風車塔があり、そこに登ると周辺のたんぼから斜面林、大宮体育館まで見渡せました。風車で発電し、その時計を動かしていました。

見沼神社に咲く華やかなサトザクラ

小さな公園ですが、そこには淡い黄緑の花の鬱金うこんとピンクの濃い八重咲きの関山かんざんというサトザクラが華やかに咲き誇っていました。

芝川左岸に透明な湧水路が

芝川左岸に神明下橋と鷺山橋の間に湧水路が2ヶ所あって、芝川に流れ込んでいました。(小野 達二)

「見沼ふれあい農園づくり」にご参加下さい! 9月～11月全5回(種蒔き・除草・収穫)

見沼たんぼくらぶでは、昨年引き続き「農園づくり」を開催します。緑あふれる農村型自然景観の中で、職業・年齢・性別を問わず、見沼たんぼの土に親しみ、爽やかな汗を流してもらおうという趣向です。

埼玉県土地水政策課の支援の下、県所有の休耕地をボランティア・スタッフが耕運機や手作業で農地に復元し、鶏糞を施し、畝うねまで作り、皆さまが直ぐ秋野菜の種子を蒔けるようにしておきます。

見沼たんぼで農作業を楽しみながら、夏から秋にかけて季節の移り変わりを体感してみたいでしょうか。皆さまの参加をお待ちしています。もちろんお子様連れの家族の参加も大歓迎です。開催日時やお申し込みについてはP8をご覧ください。

『農あるまち宮代を歩く』を開催します! 9月25日(土)

埼玉県東部の中央に位置する宮代町は、半世紀前は純農村で農業者が人口の50%を占めていましたが、高度成長期を迎え、東京のベッドタウン化が進み、農業人口は今や6%にまで激減しています。年々不耕作地が増え、雑木林も荒れていきました。

そうした状況の中で、1997年、町当局が町民の声を反映した「農のあるまちづくり計画」を策定し、町民と行政が協働して農地の再生に立ち上がりました。その中核が「新しい村」で一般町民の田圃づくりと畑づくりが広がり、「森の市場ゆい結」を開設し、農業者の農産物を販売し、地元で購買してもらうことで、農業の活性化が進んでいます。

農地の再生で、生物の多様性が蘇り、絶滅危惧の水湿植物が多く自生しています。荒れた雑木林もボランティアによって明るい森に復元し、森林浴を楽しむ町民の憩いの場になっています。

農あるまち宮代を歩くことで、見沼たんぼ再生のノウハウを学ぶ事が出来るのではないのでしょうか。ご参加希望の方はP8で詳細についてご確認下さい。

見沼たんぼの四季 『見沼の夏』

— 「芋の露連山影を正しうす」 蛇笏 —

見沼は元々湿地帯であったため里芋の栽培に適しており、この時期にはあちこちで元気な里芋の葉っぱを見かけます。写真ではちょっと見えにくいのですが、ビニールハウスの向こうには新都心の高層ビル群が見えます。見沼の芋の葉の露には高層ビルが映っているかもしれませんね(実は「露」は秋の季語なのですが)。こんなふうには都市と農村の風景が一緒に楽しめるのも見沼ならではの。採りたての野菜をならべた無人スタンドや直売所をのぞいてみるのもまた、見沼散策の楽しみのひとつです。(高橋)



里芋の葉

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

開けられた「開かずの門」

「さいたま竜神まつり会」では、毎年5月4日、「竜の伝説を聞きながら楽しいウォーキング」を開催しているそうです。コースは見沼自然公園⇒万年寺⇒国昌寺⇒氷川女体神社の約5kmで、10時に出発し12時30分着の行程で、13時30分から氷川女体神社で「おんいあふねりゅうじんさい 祇園磐船 竜神祭」の祭事も見学できます。

私はその日、総持寺のボタン園を見学した後、直ぐ近くの国昌寺を参拝していました。すると、上記のウォーキングに参加されていた皆様が「竜神」を先頭に境内に入ってきました。「これから『開かずの門』が開きますのでご覧になりませんか」と係の女性の方から誘われたので、拝見させて頂くことにしました。

国昌寺(緑区大崎)には「開かずの門」があり、私はなぜなのか不思議に思っていました。開門に当たって開かずの門の『謂われ』を、係の方は丁寧に説明して下さいました。

昔、見沼には「竜」が棲んでいて、しばしば大暴れして田畑を荒らすので困っていました。たまたま、日光東照宮の「眠猫」を彫った左甚



開かずの門を竜が潜る

五郎が日光からの帰り道に近くを通ったので、お願いして「竜」を彫って貰い、山門の欄間に封じ込めて貰いました。以後、「竜」は暴れる事はなくなりましたが、ある葬式の時に棺がこの山門を潜りぬけると棺が軽くなってしまいました。棺の中が空になってしまったから、皆さん驚いてしまいました。村人たちは、山門に封じ込めてしまった「竜」の仕業ではないかと考えるようになり怖くなってしまいました。それ以来、山門は固く封じられたままになってしまったそうです。

説明が終わり、門が開けられると、門の前に列をなしていた参加者は、竜神を先頭に山門を潜り始めました。私も潜らせて頂きましたが、「竜神の話」を聞いたばかりなので、自分も「竜」に食われてしまい、山門を潜りぬけると同時に自分の姿が消えているのではないかと思ひ、実の処、不安な感じを抱きながら潜らせて頂きました。

現在「開かずの門」は、正月三が日と竜神祭り日以外は閉ざされたままだそうです。(召田紀雄)

色々な花が見られる花しょうぶ園

6月になると「花菖蒲」が何と言っても綺麗です。見沼区染谷にはおよそ8000㎡の敷地の中に、約300種類を揃えた「染谷花しょうぶ園」があります。昭和58年に開園したそうですが、この辺りは作物も植木も生育不良のために、昔は荒地のままだったそうです。

植木の生産販売を生業としていた園主は、調査の結果、当地が花しょうぶの栽培に適している事を知りました。苗床の整備をして苗を増やすために栽培をする一方、各地の花菖蒲園を見学されたとの事です。「こんな綺麗な花を、咲き捨ててしまうのはもったいない、皆さんに見て頂き喜んで頂けるのなら・・・」と考えるようになられたそうです。染谷花しょうぶ園はこのような経緯を経て、本格的にスタートしたそうです。

花菖蒲はアヤメ科の多年草の初夏の園芸植物で、500年前には既に観賞用として栽培されており、江戸時代になってから一層盛んになったそうです。



染谷花しょうぶ園

今年の咲き具合は「園」の話ですと、例年に比べ遅れ気味との事ですが6月1日から6月末まで開園との事でした。濃紫、赤紫、ふじ、白、黄、淡青・・・等色合いも豊富、絞りのもの覆輪のもの等、それこそ色々な花が賑やかに咲き、目を楽ませてくれます。

ウィークデーではありませんでしたが、沢山の皆さんがグループで来たり、ご夫婦で来たりして賑わいをみせ、中には車椅子の方に付き添って来られている方も目に止まりました。園内を縦横に走る散策路のあちこちでは、こうした人たちが立ち止まっては、一つ一つの花を確認するようにして楽しんでおります。注意して見ると、三脚にカメラをセットしてその一瞬を伺っている人、メモ紙を取り出し熱心に名歌を詠ずる人、スケッチ画を目を細めながら描く人・・・、夫々の人が夫々の姿で楽しんでおり、どの方の目を見てもそれこそ生き生きしている事を感じました。

初夏の一時を、多くの方々が花しょうぶ園で過ごされており、色々な姿で楽しんでいる様子が伺えました。(召田紀雄)

見沼たんぼの植物

－ 帰化植物 －

セイヨウタンポポ、アレチウリなどの帰化植物が野原で多く見られることが話題になっているが、見沼たんぼ地域もその例外ではない。

5月24日調査の見沼たんぼ北部の大宮区・北区・見沼区に跨る芝川の鷺山橋から境橋の左岸及び市民の森・大宮第二公園・大和田緑地公園などで観察された開花中の草本植物は87種あった。その内、31種は帰化植物である。その種は13科に区分され、キク科7種、イネ科6種、マメ科・アブラナ科が夫々3種あり、この4科の種で70%を占める。この比率は季節によって異なる。

キク科のムシトリナデシコは、江戸末期に観賞用として導入され、イネ科のネズミムギは明治初期に牧草として導入された飼料作物のイタリアンライグラスが逸出して野生化したものである。マメ科のアカツメクサは明治初期に牧草として導入され、シロツメクサも江戸時代にオランダからの荷物の詰め物として渡来し、更に明治初期に牧草として盛んに導入された種である。また、アカバナ科のアカバナユウゲショウは明治年間に観賞用として導入されたが、現在は野生化して道端でよく見掛ける粹な名の種である。帰化植物の名称には「オランダ」「アメリカ」

「セイヨウ」など国・地域名や「アレチ」が名称の前に付く場合や、「〇〇モドキ」のように名称の後ろに付く事例が見掛けられる。

帰化植物とは、平凡社世界大百科事典によれば、「人類の生産や交通の諸活動によって人為的に、本来の生活域とは地理的にかけ離れた地域に運ばれ、そこに自然な生活域を確立した」植物である。古い時代に日本へ穀類・花卉・葉など栽培植物として導入に伴いそれに付随（雑草）した種、その栽培が放棄され野生化した種などのほか、偶然に運ばれるがその種自体の繁殖力から野生化したものもあろう。

縄文・弥生から江戸時代にかけて帰化した植物を「旧帰化植物」と言い、江戸末期から現在までの帰化したものを「新帰化植物」と区分されているが、後者を「帰化植物」とする場合があります、上記観察の種数の数え方もそれによる。後者は、江戸末期の開国から海外との交流が盛んとなり、それまで、主として東アジア中心であった種から欧州や南北米大陸などからの種が加わり量・質的に拡大してきた。

ある地域の植物全数に対する帰化植物数の比率を帰化率といい、地域の環境診断の目安にする場合がある。一般に新住宅地の方が、旧市街地より帰化率が高い傾向がある。(NPO法人自然観察さいたまフレンド 若野忠男)

見沼たんぼの動物

－ 水の外来種ギャング －

見沼たんぼの水辺には、生態系を攪乱する外来種の水生動物が我がもの顔にはびこっています。まさに水のギャングです。そのさいたるもの三種を紹介します。元は有用動物として輸入したものばかりですから呆れてしまいます。

ミシシッピーアカミミガメ

アメリカ南部・メキシコ北東部原産。1950年代後半から“ミドリカメ”として幼体が愛玩用に輸入されました。大きくなって「飼いガメ」が「捨てガメ」に変わったのです。日本在来のカメよりも産卵数が多く、悪水でも平気です。芝川では、在来のクサガメの10倍に増えています。

ウシガエル

アメリカ原産。1913年に食用として輸入されました。繁殖力も食欲も極めて旺盛です。他種の蛙も水生昆虫も魚も鳥の雛も、カメ以外は何でも食べつくします。絶滅危惧種のトウキョウダルマガエル

が減ったのも、これが一つの要因です。牛に似た声で鳴くので、牛蛙といえます。

カダヤシ

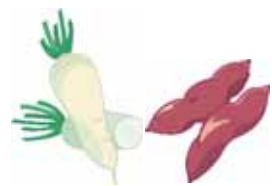
アメリカ南東部原産。1916年、台湾経由で、ボウフラ駆除の目的で輸入されました。それで、蚊絶やしという名前が付きまして。稚魚を産む卵胎生で、一腹300尾といわれます。肉食でメダカの卵が大好物です。絶滅危惧種のメダカが激減したわけです。まさにチビっ子ギャングです。

水のギャング撲滅運動を！

これらの獰猛な外来種を野放しのままにしておくと、見沼たんぼ在来の水生動物は絶滅の恐れがあります。いま市民と行政が協働してミシシッピーアカミミガメとウシガエルとカダヤシを撲滅する運動を起こすことが急務となっています。(NPO法人自然観察さいたまフレンド・小野達二)



見沼たんぼの農家さんのお話



風の谷農場を訪ねて

「見沼に住み、百姓仕事をするようになって、…(途中略)…他の生き物たちと同じように、無意識に肌で季節と呼応できることがとても嬉しい。」(ブログより)

日焼けしたどちらかという小柄な三宅さんは、静かな語り口で言葉少なに語る方でした。案内してもらった新宿橋近くの畑の第一印象は、「たくさん野菜がいた方が嬉しいので」という三宅さんの言葉通り、なんだか楽しそう!というものでした。あちこちからいろんな野菜や草や虫たちの話声が聞こえてきそう…。

風の谷農場の三宅さんは、農業とは何の係わりもない環境で生まれ育ちました。



流通業界で食品関係の仕事をしていましたが、思うところあって10年ほど前に仕事を辞めバックパックひとつを背負ってアジア諸国を一年間旅して回ります。そこで、今の日本では見えなくなってしまった人の生きる力、生き物が生きる、ということと出会い、それが農的生活を始めるひとつの大きなきっかけとなりました。

帰国後、日本有機農業研究会のマップで探した東所沢の農家で研修を受け、いよいよ農業を始める場所を探します。最初は本当に農業でやっていけるのか、食べていくことができるのか心配だったといいます。だから実家のある赤羽から通える所、という条件であちこち探しますが、なかなか見つかりません。見沼の地を選んだのは、練馬の農家から、見沼のほうに農地があるようだという情報を偶然もらったから。そしてそこからの行動力がすごい。100人に名刺を配って直談判。そのうちの5人からリアクションがあって、最終的には1人の方から農地を借ります。一反から始めて、後は人づてに増えていき、現在では8ヶ所、1.2ヘクタールを耕作しています。埼玉県の新規就農者研修にも参加し、農家資格を取得して、最初は赤羽の実家から通いで耕作していました。農業だけでやっていくのが大変で、他のアルバイトをしながらの時もありました。けれどやはりそれでは思うような農業はできない、と見沼の地に移り住み、これ一本でやっていく決心をします。

畑の一隅に堆肥場がありました。落ち葉や米ぬか、

雑草や野菜クズ、生ごみなどから作っています。土から生成されたものをまた土に還す。自然の大きな循環のなかの一部としてありたい、という想いがそこにあります。

三宅さんのこだわりのひとつに自家採種があります。現在、種は育種会社から買うのが一般的です。理由はいろいろあります。しかしその土地で育ったものから種を採り、再びその地に蒔き育てる。すると種は年々確実にその土地に合ったものになっていくそうです。自分が今その恩恵を



堆肥場に立つ三宅さん



花が咲いちゃった!のではありません。種を採るためです。

受けて暮らしている見沼の地に、いつかその適した作物を還せたら、そんな想いで種を採り続けているそうです。

現在、収穫物は個人宅配でほとんど捌けてしまうということです。お客さんは近くの人が多く、配達の日には収穫、箱詰めをして、その日のうちに配達するとのことで、まさに採りたてが作り手から直接届くわけです。

とはいうものの、目下の悩みは手が足りないこと。そこで、現在、風の谷農場では研修生を募集中です!報酬は収穫物の現物支給ということで、一緒に作業しながら農業を実地で学んでみたいという方、特に若い方でこれから見沼で農業を仲間としてやっていける人と一緒に出来たら、ということでした。見沼の地にいろいろな「人」の種が蒔かれて育っていつくれば、どんなに素敵なことでしょう。興味のある方は下記にご連絡ください。

風の谷農場

さいたま市緑区代 393-9

Tel&Fax : 048-878-7053

携帯 : 090-6924-9972

E-mail : kazenotani-farm@tempo.ocn.ne.jp

ブログ : <http://wvfarm.exblog.jp>

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「国昌寺・開かずの門」
(緑区・南部領辻)

「見沼たんぼ」を見下ろす台地に位置する。「開かずの門」の伝説がある山門には、高欄に左甚五郎作といわれる竜の像がきざまれている。



「古代蓮」(浦和くらしの博物館民家園)

見沼たんぼの仲間たち No. 16

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

グラウンドワーク in 芝川

芝川から見沼たんぼを生き物豊かな環境に

見沼たんぼと芝川の生き物

緑区の芝川は見沼たんぼの真ん中を全ての水を集め流れています。見沼たんぼが生き物豊かな環境になるかは芝川が豊かになっているかどうかにかかっていると云っても良いかもしれません。

水辺のサポーターに参加（埼玉県）

水辺のサポーターに参加した経緯をお話しますと、我々の会のメンバーのほとんどが南部領辻地内にある財団法人さいたま緑のトラスト協会保全第1号地「見沼周辺斜面林」の保全活動に参加しています。

見沼たんぼ周辺斜面林の保全活動では生き物豊かな里山になるよう目指して保全活動や自然観察会を行っており、特に鳥の観察では芝川を探鳥ルートにしています。この芝川周辺の地域では多くの鳥が観察できます。夏はツバメ、オオヨシキリ、セッカ、カッコウ、コアジサシ、など、冬はコガモ、マガモ、オナガガモ、ジョウビタキなど、季節を通してはカワセミ、カワウ、カルガモ、カイツブリ、バンなど、また上空にはオオタカ、チョウゲンボウ、ツミなど、季節ごとにたいへん多くの鳥が観察できます。しかし、河川敷には放置されたゴミが見られ、環境を悪くしていることがしばしばありました。こうしたとき埼玉県の川のサポーター制度へのお誘いを受け、少しでも環境が良くなり生物豊かな環境の芝川になるお手伝いできればと水辺のサポーターに参加、2008年12月7日に埼玉県、さいたま市と協定を締結し、清掃活動など2009年1月から活動を始めました。



活動メンバー

活動内容の紹介

この区域には他にサポーターがいないため、見沼区内の芝川全域7km、大道西橋～通船堀大橋下流川口市境を担当しています。この区間を6区間、大道西橋～北宿大橋、北宿大橋～宮後橋、宮後橋～新見沼大橋、新見沼大橋～念仏橋、念仏橋～桜橋、桜橋～通船堀大橋下流川口市境分け、1月から6月の上半期に1回ずつ、7月から12月の下半期に1回ずつの年2回の清掃活動を行っています。活動を初めて2年が経過、当初よりはゴミが減少していますが、まだまだ捨てられており、特に橋周辺は多い状態です。



芝川の清掃活動の様子

これからの活動への想い

現在この地域では水の浄化や環境に配慮した河川改修や調節池の工事が行われておりますが、私たちはこれから地域の方々に活動の輪を広げていき、この芝川がもともとの生き物の豊かな環境へと改善、地域の皆さんに親しまれる川になればと思います。

団体名 グラウンドワーク in 芝川
代表 梶間 幹一郎
ホームページ <http://members3.jcom.home.ne.jp/groundwork-shibakawa/>

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

- ① 企画展「夏休み子ども博物館」
期間：7月17日(土)～8月31日(火)
内容：小学生を対象に、見沼通船堀、大昔の人々のくらしなどをテーマにしたミニ展示

2 三室地区定例探鳥会

日時：7月18日、8月15日、9月19日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分
集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉支部
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

3 教育普及事業

- ① 「昔のあそび」
期間：7月23日(金)～7月25日(日)、7月27日(火)
時間：10:00～12:00、13:00～14:00
内容：竹馬、ペーゴマ、おはじき、竹トンボなど昔の子どものおそびに挑戦。
参加費：無料(自由参加)
- ② 「昔のおもちゃ作り」
日時：7月24日(土) 10:00～12:00、13:00～15:00
内容：「つつがえし」を作ってあそぼう。
参加費：30円(材料費)(自由参加)
- ③ 「クイズ大会」
日時：7月25日(日) 10:00～12:00、13:00～15:00
内容：館内の展示を見て、クイズに答えよう。すてきな景品付き。
参加費：無料(自由参加)
- ④ 「文化財さがし」
日時：8月1日(日)～8月31日(火)
内容：博物館の中にある文化財をさがしてみよう。
参加費：無料(自由参加)
- ⑤ 「見沼通船堀のしくみ」
日時：8月7日(土)、8月8日(日) 11:00～11:30、14:00～14:30
内容：博物館の中にある模型を使って、閘門の開閉の説明をします。
参加費：無料(自由参加)

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 講座

No	講座名	月日	材料費
1	食卓のお皿作り	7月27日(火)	1200円
2	鬼瓦風の表札作り	7月28日(水)	1200円
3	竹の水鉄砲作り	7月29日(木)	100円
4	柿渋のうちわ作り(昼食持参)	7月30日(金)	800円
5	手ぬぐい作り(タマネギ染め)	7月31日(土)	200円
6	紙で編む一輪ざし作り	8月1日(日)	500円
7	お化け屋敷を作る	8月3日(火)	500円
8	藍染めでハンカチ作り(生葉染め)	8月4日(水)	600円
9	藍染めでストール作り(生葉染め)	8月5日(木)	1,500円
10	フローリングで履く布ぞうり作り	8月6日(金)	100円
11	竹のおもちゃ作り	8月7日(土)	500円
12	木のコマ作り	8月8日(日)	500円
13	風で動くおもちゃ作り	8月10日(火)	500円
14	貯金箱を作る	8月20日(金)	500円
15	敬老の日講座「孫の手を作る」	9月20日(月)	200円

時間：講座4は9:30～15:00、その他は9:30～12:00
対象・人数：講座10は、中学生以上20人、それ以外は小学生以上親子10組

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

- ① 趣味・教養講座(定員あり/無料)
- ①友禅和紙で作る三段筆筍 7月21日(水) 14時～16時 10名
②友禅和紙で作る菓子入れ 7月22日(木) 14時～16時 10名
③友禅和紙で作る眼鏡立て 7月23日(金) 14時～16時 10名
④箏曲基礎講座(全4回) 8月1日・8日・22日・29日
向日葵組：13時～14時半/芙蓉組：15時～16時半(定員各5名)
⑤韓紙で作る箱物 8月19日(木) 14時～16時 10名
⑥韓紙で作る皿物 8月20日(金) 14時～16時 10名
⑦ブックカバーを染める 9月28日(火) 14時～15時半 10名
⑧戸隠そば講座 9月29日(水) 10時～13時 8名
⑨エコバッグを染める 9月29日(水) 14時～15時半 10名
⑩団扇を染める 9月30日(木) 14時～15時半 10名
- ② 小学生対象講座(定員あり/無料)
- ①野焼き粘土で何かを作ろう！ 7月24日(土) 14時～16時 10名
②竹で作る水鉄砲 8月7日(土) 10時～12時 10名
③親子草木染教室(アカネ) 8月10日(火) 10時～12時 10組
④野焼き粘土で作るそば猪口 8月11日(水) 10時～12時 10名
⑤親子草木染教室(クチナン) 8月12日(木) 10時～12時 10組
⑥竹笛作り 8月14日(土) 10時～12時 10名
⑦竹で作る花瓶 8月18日(水) 10時～12時 10名
⑧竹で作る柄杓 8月21日(土) 10時～12時 10名
⑨竹で作る靴べら 8月25日(水) 10時～12時 10名
- ③ 公開講座(定員なし/無料)
- A 初山の朝饅頭作り 7月1日(木) 10時～11時
B 歌声喫茶 7月3日(土) 13時～16時
C 七夕馬と屋うどん作り 7月7日(水) 11時～12時
D 面白いほどよくわかる建築 9月18日(土) 14時～15時
E 郷土を知る講座「西埼玉地震と大宮」 9月20日(祝) 14時～15時半
F 十五夜観月会「ハモニカコンサート」 9月22日(水) 16時～18時
G 十五夜観月会「投句会」 9月22日(水) 18時～18時半
H 十五夜観月会「童謡合唱」 9月22日(水) 18時半～19時半
- ④ 小学生対象公開講座(定員なし/無料)
- I 昔の遊び体験くらぶ 7月25日(日) 14時～16時
J 炉端で聞く昔話と小さな人形劇 8月6日(金) 14時～14時40分
K 回り将棋をしよう！ 9月4日(土) 14時～16時
L いろいろ端で聞く月のおはなし会 9月5日(日) 14時～14時半
M 五目並べをしよう！ 9月11日(土) 14時～16時
N ビー玉で遊ぼう！ 9月18日(土) 14時～16時
O 独楽をまわそう！ 9月25日(土) 14時～16時

2 企画展示

「竹の造形」 5月25日(火)～7月19日(祝)
「織・染・刺繍」 7月21日(水)～8月29日(日)
「黒と白、そして朱」 8月31日(火)～10月3日(日)
※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

- ① 子供動物園スタンプラリー
期日：平成22年9月18日(土)～9月23日(木) 10時～16時
(ただし、21日(火)は休園日のため休み)
会場：子供動物園内
対象：小学生以下の方
内容：動物を観察しながら、5ヶ所のスタンプを集めてもらう。全問正解者に記念品を配布

大宮第二・第三公園管理事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

森力 花の写真展 9月13日(月)～9月19日(日)
第5回手作りバッグと小物の展示即売 10月21日(火)～10月26日(日)

見沼たんぼくらのイベント案内

見沼ふれあい農園づくり<家族連れ歓迎>

みんなで楽しく作る秋野菜全5回

日 時：①9月11日(土) 10時30分～12時

＊雨天の場合、18日(土)に延期

②10月2日(土) 10時30分～12時

③10月23日(土) 10時30分～12時

④11月13日(土) 10時30分～12時

⑤11月27日(土) 10時30分～12時

場 所：さいたま市緑区見沼610及び613(埼玉県公有地・龍神)

交 通：宮本2丁目バス停から徒歩8分、見沼大橋に向かい見沼代用水西縁を越えて二つ目の道を右折、「見沼たんぼくらぶ」の幟があります。

さいたま東営業所行きバス利用：

浦和駅西口①9：33発(約35分¥260)、

東浦和駅②9：57発(約12分¥190)

内 容：秋野菜の種蒔きから除草と収穫の作業

申 込 み：葉書もしくはFAXで、参加者の氏名・性別・年齢及び代表者の住所・電話番号を明記。送付先は見沼たんぼくらぶ事務局(本頁下欄)8月20日まで先着60名(定員オーバーの場合は連絡します。)参加費：無料。

持 ち 物：作業手袋、雨具、軽食、水筒(シャベル、雨靴があれば便利です。)

『農あるまち宮代を歩く』

日 時：9月25日(土) 9時30分～15時

集 合 地：東武鉄道東武動物公園駅西口

内 容：市民と行政が協働して再生した里やまの自然景観と秋の野の花を楽しみます。(昼食持参)

申 込 み：当日、集合地で9時から受付

参 加 費：¥500(見沼たんぼくらぶ会員及び中学生以下は無料)

第42回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：9月19日(日) 9時～12時30分

集 合 地：見沼自然公園

内 容：自然観察指導員のガイドで史跡を巡りながら、湿地・田圃・土手・斜面林の野の花や樹木、小動物を観察します。

コ ー ス：見沼自然公園⇒深井家長屋門⇒萬年寺⇒井上家⇒旧坂東家住宅見沼くらしっく館⇒加田屋の田圃⇒ヒガンバナ群生地⇒見沼自然公園

申 込 み：当日、集合地で8時30分から受付

参 加 費：¥500(見沼たんぼくらぶ会員及び中学生以下は無料)

第43回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：10月3日(日) 9時～12時30分

集 合 地：武蔵野線東浦和駅前広場

内 容：自然観察指導員のガイドで史跡を巡りながら、秋の自然景観と動植物を観察します。

コ ー ス：東浦和駅前⇒氷川神社⇒清泰寺⇒大牧自然緑地⇒見沼氷川公園⇒氷川女体神社

申 込 み：当日、集合地で8時30分から受付

参 加 費：¥500(見沼たんぼくらぶ会員及び中学生以下は無料)

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/